

高橋先生の思い出

アンソニー・ライアン

2007年に高橋先生が私たちの学科に赴任された当時のことを、私は覚えています。年明けから2、3日後のことでした。私は彼女の研究室に挨拶に行きました。彼女がドアを開けるや、私はそれまで何もなかった無機質な空間が、移動する余地がほとんどない本格的な研究室へと、すっかり変貌していることに驚きました。彼女が真剣な仕事をしに来ていることは明らかでした。結局のところ、彼女は未来の我々の学生のために、本学科を包括的な小学校英語教育プログラムへと導くため、雇われていたのです。当時私たちは、中学と高校の英語教師の養成と卒業に重点を置いていました。毎年入学してくる5名から6名の、小学校英語教育選修の学生たちは、不運なことに、小学校独自の、というよりも、中等教育プログラムに付随するものとして、小学校教育の技術を学ぶ必要がありました。しかしながら、高橋先生のご指導により状況は変わりました。現在、外国語教育講座は初等教育と中等教育の学生が同数であり、小学校英語独自の内容と英語教育方法論のコースを持つにいたりました。高橋先生はそれらのコースの開発の原動力であり、私たちは彼女なしではそれを成し遂げることができませんでした。

それ以来、Australian Teaching Practice (ATP) programme、CLIL、小中英語教育研修会での英語学習など、多くのプロジェクトで高橋教授と協力してきました。最近では2020年12月に、高橋先生、横浜国立大学の倉本哲男教授と私を含む4名により、World Association of Lesson Studies (WALS) 国際学会においてシンポジウム発表を行いました。また日本での教育実習だけでは授業経験が短すぎて、学生たちの英語力が不足しているとの意見がありました。そこで2011年、私は初めて、愛知教育大学の学生達をオーストラリアの小中学校に派遣して実習を行うことを考え始めました。私を支えて

くださったのは高橋教授で、彼女は ATP のプロジェクトの資金を確保してくださいました。文部科学省、愛知教育大学前学長、ロビンズ先生、英語サポートセンターのスタッフ、そしてフレンドリーな旅行代理店の支援と協力を得て、私たちはオーストラリアの小中学校へと 100 名の愛知教育大学生を派遣しました。そして彼らは、2～3 週間の間、現地で教師としての実地経験を積みました。ATP プログラムは学生達の人生を変えました。私は確信をもって、そう言えます。そしてそれは、高橋先生あってこそ可能なことでした。オーストラリアでは、高橋先生は私の母にも会われました。数年後、母と友人が日本を訪れたとき、高橋先生は彼らを岐阜のツアーに案内して下さい、一緒に和紙作りの活動に参加されました。

どのような仕事であれ、女性が男性しかいないような環境でやっていくには、大きな勇気が必要です。幸いなことに高橋先生は、多くの人にはない 2 つの際立った特徴をお持ちです。それは、イニシアチブと決意です。前者を具体的に示しているものとしては、毎年恒例の小中英語教育研修会を設立されたことが挙げられます。小中英語教育研修会は毎年何百人もの地域の教師を魅了しています。つまり高橋先生は、この地域の英語教師支援の主要な中心人物として、我々の学科でおそらく最も有名であるのみならず、愛知教育大学の名声を高められました。昨年の悲惨な状況の中でも、2020 年 12 月の直近の研修会には、対面およびオンラインの両方で 150 人以上の参加者が集まりました。私は、誰かが私たちの名前をすべて調査してリストし、愛知県のすべての英語教師に彼らが認識している愛知教育大学英語選修・専攻の教員の氏名を挙げていただくようお願いした場合、高橋先生のお名前がリストのいちばん最初にあがると思います。高橋先生が集めていらっしゃる尊敬、そして東海地方の小中学校教育における実際の労働者―実地のご指導にあたられている校長先生また先生方―からの高い評価は、比類のないものです。彼女の同僚から受け取ったコメントのいくつかはこれを裏付けています。

古瀬久美代（豊田市立寺部小学校校長）

小学校に外国語(英語)が導入され始め、教科化されるという激動の時期に高橋先生に背中を押していただき、また愛知教育大学で研修会を企画、

運営できたことは、未来につながる大きな前進だと思います。小学校での外国語の指導という未踏の分野に颯爽と挑んでいく美由紀先生の姿は、同性として素晴らしいロールモデルでした。高橋先生の撒いた種をこれから大きく育てていきます。ありがとうございました。

千賀秀樹（東海市立加木屋小学校校長）

高橋先生の小中学校英語教育にかける情熱と行動力には、驚きと感嘆を禁じ得ません。愛知県は大きいので、教育研究は尾張、三河、名古屋の三地区に分かれがちですが、この研修会を起爆剤に協働、交流できたことは大成功だったと思います。

私が重要だと考えるもう一つの高橋先生の特徴—彼女を成功へと駆り立てるもの—は、私が長年称賛してきた能力、すなわち批判や分裂に直面しても、正しくまた為すべきと信じるものに向かって、自分の道を進み続ける能力です。作家ジョージ・バーナード・ショー（1856-1950）は次のように書いています。

The reasonable man adapts himself to the world, but the unreasonable man tries to adapt the world to him. Therefore all progress depends upon the unreasonable man.

進歩と変革を恐れない彼女の歩みに、私は与するものであります。

彼女の新たな同僚となる人たちは、その訪れがもたらす変容の真価に、やがて気づくことになるでしょう。まったくもって、彼女は行動の人であります。彼女は物事を成し遂げます。新しいポジションにおいても、何事かをきっと成し遂げるでしょう。ご成功とご多幸をお祈り申し上げます。

（日本語協力：浜崎通世）